

平成 10 年度第 2 回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日時： 平成 10 年 10 月 16 日 午後 3 時から午後 5 時まで

場所： 名古屋第一赤十字病院 第 6 会議室

委員

出席者： 加納委員 有吉委員 安藤委員 岡田委員 小田委員 森川委員 風戸委員 小池委員
小山委員 田邊委員 戸苅委員 奈倉委員 判治委員 松澤委員 森田委員 長屋委員
野口委員

事務局： 愛知県衛生部保健予防課長 名古屋市衛生局保健医療部保健予防課長
名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長 同病院第二小児科部長

司会者： 名古屋第一赤十字病院第三産婦人科部長

議長： 加納会長

・ 会長挨拶

・ 議事

1. 愛知県周産期医療情報システムについて

NTTデ - タ通信より平成 10 年 10 月 1 日から稼働している愛知県周産期医療情報システムの現在の状況説明があり、その後事務局から平成 10 年 9 月 18 日に行われた愛知県周産期医療情報システム小委員会の中で出された以下の問題点が報告された。

ホ - ムペ - ジについて

少々さびしいので、今少し改良した方が良いのではないかと。改良に関して事前の了解を得るのではなかなか進まないで、後日承認を得る方向で了承いただけるかどうか。

周産期応需情報について

現在、パスワードを持たれた方のみが見ることが出来るが、パスワードの無い方でも見れる、つまりオ - プンにした方がよりシステムが活性化されるのではないかと。

掲示板について

掲示板のシステムを現在会議システムとしてイントラネットの中で設置されているが、もっと多くの意見を取り寄せる為にはオ - プンにしてはどうか。

パスワードについて

情報システムに参加していただく為に、パスワードを県内の産科施設、小児科施設にどんどん与えていく為の作業を開始して良いかと、又それに関して承認が得られるかと。

以上 4 つの問題について次のような意見があった。

- * 応需情報の内容公開については、まだ動き始めたばかりなのに公開してしまっているものかどうか。
- * 地域周産期医療センタ - としては、まだ状況判断が出来ていないのでもう少しオ - プンにすることは待った方がいいのではないかと。
- * 事務局から応需情報についての一般公開はまだ早いのではないかと。又、リアルタイムでの情報でなければ無意味である。パスワードは必要と思われる。
- * 一般情報を紹介するのならばホ - ムペ - ジでいいのではないかと。
- * 病院の機能を表示して発表することについては賛否両論がある。システムの運用とホ - ムペ - ジの運用は並行して行うのか、それとも独立して行うのか。
- * 具体的に、こうしなくてはならないということはない。又、愛知県でこういう形でさせていただくという結論は出ていない。今後、有効な形で愛知県の中で利用されるよう討議していただければと考える。
- * パスワードのある人と一般の人が見ることが出来る情報について分けてはどうか。
パスワードの発行については、
 - 1 システム内の情報のやりとり、
 - 2 地域の施設からのアクセス、
 - 3 一般からのアクセス

と分れるので、段階をへてFAX電話の運用と並行して進めてはどうか。

- * 地域と総合との運用が軌道にのってから、意見を聞いたうえで進めることにしてはどうか。
- * もう一度小委員会で練って、現実的に具体的にはどうするのか方針を出していただいた方がよい。
又、インタ-ネットで行うのかどうかは小委員会で決めてほしい。いついつまでにどこまで行うのかも決めてほしい。等の意見があり。

* 結論

地域と総合の運用がしっかりとした段階でインタ-ネットの在り方について、又パスワードの問題についても一度小委員会を開いてほしい。

2. 専門相談事業について

- * 専門相談なので、専門家のいない大学はどうするのか。又この2時間は電話番となる訳だが、いずれにしても大学の了解が要る。4大学へ依頼するにしても依頼時間、支払い単価も含め依頼すべきである。
- * 8つの地域周産期センターで、それぞれの時間に行ってはどうか。又、ネットワークで分散して実施する、すなわち総合としては振り分け係としてこの事業を実施したほうが良いのではないか。地域での相談データを集積して実績とする方法が良いと思われる。
- * 総合へ教授を集めなければいけないと言うことはなく、フレキシブルに実施すべきである。

* 結論

ひとまず窓口を開き総合で実施する。

地域での相談データを集積する。その際内容について総合周産期母子医療センターから地域周産期母子医療センターへ案内、又は依頼をすべきである。いずれにしても、上記によりこの事業を動かし実績をあげる。

3. 周産期医療における実績報告 資料参照

- * 風戸委員から、今では全部母体搬送について受けられるようになった。しかし、地域センターとの患者のやりとりは今のところない。
- * どの地域からの又どの病院からの患者か、データがあれば次回から添えて欲しい。

4. その他

平成10年8月24日厚生省の周産期協議会について 資料参照

次回開催日平成11年1月22日